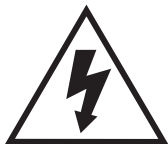




# DM4 Distortion Modeler

## 取扱説明書



## 注 意

感電の恐れあり  
キャビネットをあけるな



**警告：火災や感電の原因になりますので分解・改造は厳禁。修理・調整は販売店にご依頼ください。**

**警告：火災や感電の原因になりますので本機を雨や水がかかる場所には設置しないでください。**



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

### 本書の記載について:

Line 6 及び M9 は、Line 6 社の登録商標です。このマニュアルに掲載されている写真、イメージ、登録商標、アーティスト名はそれぞれの所有者の権利に基づくものであり、このマニュアルでは Line 6 のデジタルモデリングテクノロジーを駆使し、独自に開発された音を適切に表現するためだけに使用されています。また、これらの写真、イメージ、登録商標、アーティスト名の使用において、いかなる協力やエンドースメントも関わるものではありません。

SERIAL NO: \_\_\_\_\_

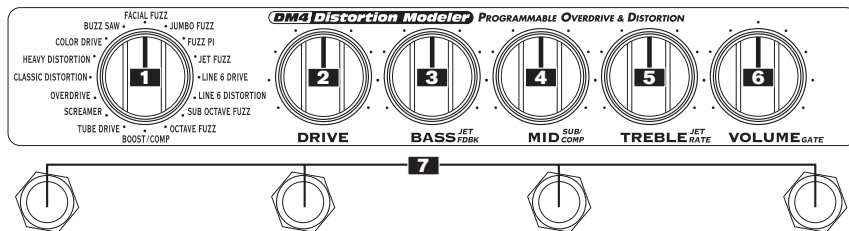


安全上のご注意を良くお読みください。この取扱説明書は大切に保管してください。



- 本書の注意事項を良くお読みください。
- 本書の注意事項を守ってください。
- すべての警告を守ってください。
- すべての指示に従ってください。
- 本機を水気の近くで使用しないでください。
- お手入れは必ず乾いた布で拭いてください。
- 通気口をふさがないようにください。取扱説明書で指定された場所に設置してください。
- 適切にアース接地されたコンセントに接続してください。
- ⊕ • 本機の電源プラグが合わないような場合は、電気工事を依頼し適切なコンセントに交換してください。
- 電源コードの接続部を無理に曲げたり踏んだりしないようにしてください。
- 必ず指定された付属品を使ってください。
- 本機の設置は弊社の推奨するカート、スタンド、ブラケットなどを使用してください。移動式のカートを使うときは転んでけがをしないように注意してください。
- 雷が近づいたり、長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
- パワーサプライのコードやプラグが損傷したとき、内部に異物が入ったり液体がこぼれたとき、本機を落としたときなど、修理が必要な時はサービスセンターに依頼してください。
- 水滴のかかる場所での使用や保管はしないでください。本機の上に花瓶のような液体の入ったものは置かないでください。
- 警告:火災や感電の原因になりますので本機を雨や水のかかるところには設置しないでください。
- 本機はコンセントの近くに設置し、容易にプラグへ手が届くようにしてください。
- パワーサプライのプラグは必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 大音量や不快な音量で長時間使用すると難聴や聴力障害を起こすことがあります。常に安全な音量で使用することを心がけてください。
- 次のような場合には修理が必要です。
- パワーサプライのコードやプラグが損傷したとき
- 本機の内部に異物が入ったり、液体が入ったりしたとき
- 雨天や湿度の高いところで使用し、故障したとき
- 本機が落下したりして損傷したとき
- 製品に異常や故障が生じたとき





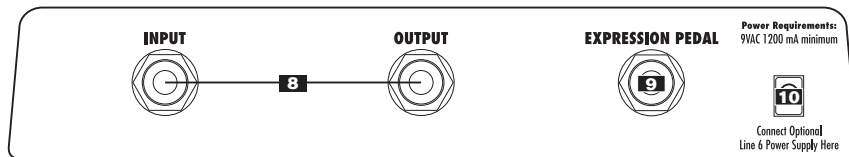
1. **モデル・セレクトノブ** - 各モデルを選択します。素晴らしいサウンドになるよう、あらかじめプログラムされています。
2. **[DRIVE]ノブ** - 信号を歪ませる量を設定します。詳細は各ディストーション・モデルの内容をお読みください。
3. **[BASS]ノブ** - 低音域を調整します。詳細は各ディストーション・モデルの内容をお読みください。
4. **[MID]ノブ** - 中音域を調整します。詳細は各ディストーション・モデルの内容をお読みください。
5. **[TREBLE]ノブ** - 高音域を調整します。詳細は各ディストーション・モデルの内容をお読みください。
6. **[VOLUME]ノブ** - エフェクトのかかったサウンドの音量レベルを調整します。左に回すとレベルが低くなり、右に回すと高くなります。
7. **ストップ・スイッチ** - 4種類のメモリーから選択するスイッチです。スイッチを踏むと、そこに保存されているサウンドが呼び出されます。メモリーの内容を変更するには、任意のスイッチを3秒間踏み続けます。聴こえているサウンドがそのスイッチに保存され、後で呼び出しができます。

## ノイズ・ゲートの使い方

Distortion Modeler用のモデル・サウンドを開発しながらふと考えたのは、「シングル・コイル特有のハム・ノイズや、ファズにもならない不要なノイズをノイズ・ゲートで抑えたら、クールで斬新なサウンドになるのでは？」ということです。そこで、4つのプリセット・メモリーそれぞれにノイズ・ゲートをオン/オフする設定を加えました。以下の手順で、各プリセットのノイズ・ゲートをオン/オフします。

1. 必ずバイパス・モードにします(インジケータがすべて消灯していることを確認してください)。ノイズ・ゲートを使いたいプリセットのストップ・スイッチを踏んだままにしてプリセットを呼び出し、ノイズ・ゲート選択モードに入ります。
2. スwitchをそのまま踏み続け、[VOLUME]ノブを回して、そのプリセットのノイズ・ゲートの状態を切り替えます(ノブの印が上向き(12時の位置)でゲートがオン、下向き(6時の位置)でオフになります)。
3. 選択中のプリセットのインジケータでノイズ・ゲートの状態がわかります。
  - 点灯=ノイズ・ゲートはオン
  - 消灯=ノイズ・ゲートはオフ

**JET FUZZ**モデルでは、ノイズ・ゲートは無効になります。



8. **[INPUT]/[OUTPUT]端子** - 入出力端子です。入力端子はオン/オフスイッチとしても機能し、ここにケーブルを差し込まないと本体電源はオフになります。電池駆動時に本機を使用していない時は、この端子に何も接続しないでくと電池が節約できます。
9. **[EXPRESSION PEDAL]端子** - 別売のLINE 6エクスプレッション・ペダルを使用すると、両手で演奏しながら足元でエフェクトのパラメータをコントロールできます。操作は簡単です。[INPUT]端子からケーブルを外して本機の電源をオフにします。エクスプレッション・ペダルを[EXPRESSION PEDAL]端子に接続し、ペダルのかかたとをいっぱいに下ろした状態にします。[INPUT]端子にもう一度ケーブルを接続し(これで電源がオンになります)、任意のモデル・サウンドを呼び出します。次にエクスプレッション・ペダルのつま先側をいっぱい下ろして、その状態でのサウンドを各ノブで適宜設定します。ペダルを前後に踏むたびに、設定した2種類の音が混じる割合が変化して聴こえます。このサウンドをメモリーの1つに保存すると、トゥ・ダウン(つま先を下ろした状態)とヒール・ダウン(かかとを下ろした状態)で聴こえるサウンドのスナップショットが保存されます。エクスプレッション・ペダルでは、モデル・セクター・ノブ以外のノブをいくつでも使用できます。ただし、エクスプレッション・ペダルを接続していない時にメモリーを呼び出すと、ヒール・ダウン時のサウンドとなります。
10. **電源端子** - 別売のLINE 6 AC電源アダプターをここに接続します。電池駆動の場合は単2電池4個が必要です。寿命の長いアルカリ電池をおすすめします。[INPUT]入力端子からケーブルを外すと本機の電源はオフになります。使用していないときは必ずケーブルを外して電池を節約してください。電池残量が少なくなると、ペダル上の4つのインジケータが点滅します。

## スイッチング回路によるバイパス (True Bypass & Alternate Bypass)

使用中のメモリーに該当するストップ・スイッチを踏んでメモリーをオフにして本機をバイパスさせると、内蔵のスイッチング・リレー回路が切り替わります。このリレー回路によって、ギターの信号が入力端子から出力端子へ直接流れ、信号処理もアナログからデジタルへの変換が全く行われずに全回路をバイパスします。これがTrue Bypass (トゥルー・バイパス) です。一方、バイパス中でも DSP (デジタル信号プロセッサ) が有効なバイパス・モードもあります。これは Alternate Bypass (オルタナート・バイパス) です。このバッファ式バイパス・モードは、ストップ・ボックスからアンプまでのケーブルが長い時に便利です。Alternate Bypassに切り替えるには、左から1番目と3番目のストップ・スイッチを踏んだまま [INPUT]入力端子にギターを接続します。(この端子からケーブルを外すと電源はオフになります)。このモードは、True Bypassに切り替えるまで変わりません。

## 工場出荷時のプリセットへの初期化

工場出荷時には、本機のメモリーに素晴らしいサウンドの数々がプログラムされています。ご自分のカスタム・サウンドをメモリーに入れると、このプリセットが上書きされることとなります。そこで、カスタム・サウンドを消去して工場出荷時のプリセットに戻りたい場合は、一番左と一番右のストップ・スイッチを同時に踏みながら、[INPUT]入力端子にギターを接続します。( [INPUT]端子にケーブルを接続していないと電源はオフになります。)

## LINE6 のホームページ (www.line6.com) で最新情報を!

LINE6 のホームページでは、お使いの DM4 Delay Modeler についてのいろいろな情報をご紹介します。また、オンラインのディスカッション・グループに参加したり、www.line6.jp/support/ で DM4 Distortion Modeler 取扱説明書の最新版をダウンロードすることもできます。製品登録はオンラインで、または同梱の製品登録カードに必要事項を書き込み郵送してください。製品登録することで、今後万一何らかの問題が生じた時に保証サービスを受けられるだけでなく、キャンペーン応募や特典を受けることができます。

## Boost/Comp (\*MXR® Micro Amp をモデリング)

このエフェクターはマスター・ボリュームのないチューブアンプの直前で音を”プッシュ”できるので、程よくライブ感を生み出すことができ、多くのトップギタリストたちに愛用されていました。このモデルでは”アンプ入力をブースト”する同様の効果を備えながら、さらに少しの隠し味を加えてあります。Micro Ampにはノブが1つしかありませんでした。このモデルには4つのノブが追加されました。BASSとTREBLEを12時の位置に合わせるとクラシックなサウンドが得られます。MIDでコンプレッションの強さを調節します。



## Tube Drive (\*Chandler Tube Driver® をモデリング)

オリジナルはキーボーディストである Brent Butlerが、自身の演奏する Farfisa オルガンのために製作したものです。Tube Driverはプリアンプ用の真空管 (12AX7) を1本使用し、甘く唄うようなサスティーンで世界中のギタリストが愛用しました。80年代半ば、Eric Johnsonがこのエフェクトを主に使いました。このモデルではオリジナル同様、HiとLoのEQコントロールでスイートな音色を提供しています。他のDMモデルにも共通するMIDコントロールを加えてありますので、ミッド・レンジのブースト/カットでギタートーンの調節が可能です。(MIDを12時の位置にするとエフェクト無しとなります)



## Screamer (\*Ibanez® TS-808 Tube Screamer® をモデリング)

Tube Screamerは Stevie Ray Vaughan や Michael Landau に愛用され、このシンプルなオーバードライブが世界中に広まりました。このミディアム・ゲイン・ペダルは80年代初期に発売され、ブルース界ではこのエフェクトを使わないとソコが弾けないと言われていました。その後IbanezはTube Screamerの数種のバリエーションを発売しましたが、どれもTS-808の伝説的な地位には届きませんでした。DM4のMIDノブはTube Screamerのトーン・ノブと同じ働きをします。加えて、BASSとTREBLEコントロールを使えばさらに音に磨きがかかります。(または、12時の位置にしてエフェクト無しにすることもできます。)



## Overdrive (\*DOD® Overdrive/Preamp 250 をモデリング)

このプリアンプはディストーションを加えることと同じ様に、チューブ・ギターアンプへの入力に圧力をかけます。アンプへの入力レベルを上げることで極端なディストーションを発生させることができます。Yngwie Malmsteenのようなギタリスト達にとっては、Overdrive Preampのサウンドが不可欠のものになりました。オリジナルはゲインとレベルコントロールだけでしたが、DM4にはEQも装備されています。使い方によって、上品な味を出すのも、極端な方向に行くのもあなた次第です。



\*このマニュアルに掲載されている製品名は該当所有者の商標であり、Line6社との関わりはありません。製品名、説明内容、写真は、本機のサウンドモデル開発中に研究対象となった製品を説明するためにのみ使用しています。MXR® は Dunlop Manufacturing, Inc. の登録商標です。Tube Driver® は Butler Audio, Inc. の登録商標です。Ibanez® は Hoshino, Inc. の登録商標です。Tube Screamer® は Hoshino Gakki Co. Ltd. の登録商標です。DOD® は DOD Electronics Corp. の登録商標です。

## Classic Distortion (ProCo Rat をモデリング)

70年代後期に発売されたRATは、ディストーション・エフェクトの新たな時代の始まりでした。RATはファズよりも激しくアグレッシブなサウンドで、この頃ちょうど流行りだしたメタルの新サウンドとして存在感を示しました。RATは何度か仕様変更を繰り返していますが、オリジナル・サウンドに対する設計方針は首尾一貫しています。これら2つのRATの基盤、回路はほとんど同じです。MIDノブはオリジナルのフィルター・コントロールのように働き、低く設定した時は明るい音を、高く設定した時は暗い音になります。加えて、BASSとTREBLEコントロールを使えばさらに音に磨きがかかります。(または、12時の位置にしてエフェクト無しにすることもできます。)



## Heavy Distortion (\*Boss® MT-2 Metal Zone をモデリング)

このペダルは80年代後期から90年代初期のヘビーマタル全盛期に発売されました。このペダルの名前(メタルゾーン)のとおりシーンがうかがえます。これで重厚なサウンドを得られます。



## Colordrive (\*Colorsound® Overdriver をモデリング)

Jeff Beckを始めとする1965年のロンドンCacari's Music Exchangeあたりで活躍した多くの著名ギタリスト達に使用された音です。Tone Benderの要求に対応するため、LarryとJoeのMacari兄弟は、Sola/Colorsoundのブランド名でペダルの開発を始めました。SolaはMarshall, Park、およびVoxにもペダルを提供しました。このモデルはビンテージ・トーンを醸し出していますので、プリティッシュ・ギターヒーローたちのいる時代へタイムスリップできます。MIDコントロールで、ミッド・レンジのブースト/カットすることでギタートーンの調節が可能です。MIDを12時の位置にするとエフェクト無しとなります。



## Buzz Saw (\*Maestro® Fuzz Tone をモデリング)

ローリングストーンズの「I can't get no Satisfaction」を口ずさんでみてください。あのギターサウンドが蘇ってくるはず。このサウンドは1961年、ナッシュビルでの壊れたミキサーチャンネルによって生まれたものと伝説になっています。それから間もなくこのファジーサウンド・エフェクトの回路が設計され、新しい時代が始まりました。ファズトーンを使うミュージシャンには、ドアーズのRobbie Krieger、YESのSteve Howe、そしてもちろんKeith Richardsなどがいます。Maestro Fuzz Tone無しではこれらのクラシック・サウンドを手に入れるのは難しいでしょう。BASS、MID、TREBLEを12時の位置に合わせるとクラシック・サウンドが得られます。



## Facial Fuzz (\*Arbiter® Fuzz Face をモデリング)

1966 年後期、悪名高い丸いストンプ・ボックスがロンドンのミュージックシーンを揺るがしました。Arbiter Musicによって開発された Fuzz Face は伝説のギタリスト、ジミ・ヘンドリックスを中心にすぐに広まっていきました。初期のすべてのストンプ・ボックスのように、Fuzz Face も数々のモデルチェンジを繰り返していきます。ゲルマニウムを積んだ写真のモデルをベースにモデリングされました。オリジナルは灰色と黒に塗られた Arbiter Fuzz Face の初期のモデルです。DM4 のオリジナルに忠実なサウンドで伝説があなたのものになります。BASS、MID、TREBLE を 12 時の位置に合わせるとクラシック・サウンドが得られます。



## Jumbo Fuzz (\*Vox® Tone Bender をモデリング)

60 年代のブリティッシュ・ミュージック・シーンでは、偉大なバンドとともに多くの優れた機材が生まれました。Tone Bender もその一つです。Jimmy Page を注意深く観察するとよく分かります。彼の周りに必ず Tone Bender があることに気が付くでしょう。Tone Bender の音は Led Zeppelin の最初の 2 枚のアルバム、特に "Communication Breakdown" の中で聞くことができます。BASS、MID、TREBLE を 12 時の位置に合わせるとクラシック・サウンドが得られます。



## Fuzz Pi (\*Electro-Harmonix® Big Muff® Pi をモデリング)

ブリティッシュ製に負けないように、他メーカーはファズを使って対抗するようにしました。Mike Mathews はディストーションやファズ・ペダルの分野では素晴らしいエフェクトをいくつも創りました。もっとも人気のあったのが Big Muff Pi で、よりスイートなサスティーンで知られています。Electro-Harmonix は余剰パーツを用いた製品作りで有名になり、様々な基板設計とスペックを持つパーツを生産しました。写真の Big Muff は私たちのコレクションの中の数種類ですが、中央にあるのがトライアングル・ノブ・パターンとして知られたモデルです。MID は Big Muff のトーン・コントロールのような動きをします。BASS と TREBLE を 12 時の位置に合わせるとクラシックなサウンドが得られます。



## Jet Fuzz (\*Roland® Jet Phaser をモデリング)

フェイザーは MM4 に含まれていますが、どうしてもこれをここに入れたかったのです。それは AP-7 Jet Phaser です。70 年代の Roland のカタログには「Jet Phaser/AP-7 はロックギターのための、ダイナミックなジェットサウンドを作るフェイズシフターです」とあります。このモデルは Ernie Isley の Who's That Lady や、Scorpions の Uli Roth を思い起こさせます。DM4 の BASS と TREBLE のノブの部分に書かれた小さな文字をご覧ください。このノブにはこのモデルで使うための特別な機能があります。BASS ノブでフィードバックを、TREBLE ノブでフェイザーのレートを設定します。MID ノブでファズのトーン・コントロールを設定します。Jet Fuzz にはノイズ・ゲート機能はありません。



\*このマニュアルに掲載されている製品名は該当所有者の商標であり、Line6社との関わりはありません。製品名、説明内容、写真は、本機のサウンドモデル開発中に研究対象となった製品を説明するためにのみ使用しています。Roland® は Roland Corp. の登録商標です。Arbiter® は Arbiter Group PLC. の登録商標です。Vox® は Vox R&D Limited. の登録商標です。Electro-Harmonix® and Big Muff Pi® は New Sensor Corp. の登録商標です。

ため



## Line 6 Drive (Tonal Dimension でタイムトラベリング)

60年代に戻ってファズ・レボリューションの一端を担うとしたら何ができるでしょう。あるいは80年代のディストーションを設計するとしたらどうでしょう。もしあなたがギタートーンの歴史の1シーンに行くことができ、心強いエフェクターを持っていくとしたら、どんなマシンがいいのだろうと考えてみました。私たちが作ったLine 6 Driveモデルがベストでしょう。MIDノブで自由にタイム・コントロールができます。左いっばいに回すと最小レベルになり、70年代のチープなファズ・ボックスの世界になります。ノブを12時の位置にすると、より近代的でハイレベルなハードロック・サウンドが得られます。ノブを右いっばいに回すと最大レベルになり、60年代中期に流行ったサウンドを体験できます。



## Line 6 Distortion (最高のディストーション・モデル)

私たちのディストーションに対する思い入れを込めてこのモデルを開発しました。これは重量感があります。最高のレベルに仕上がった音には自信があります。ぜひこれを使ってヒット曲を作ってください。そしてグラミー賞であなたのスピーチを聞きたい!



## Sub Octave Fuzz (PAiA Roctave Divider をモデリング)

このモデルは下1オクターブのファズです。Moogを演奏するときに良く合います。アナログシンセに負けないような揺れを持つディープで太い矩形波が特長です。Roctave Dividerペダルはその名前のとおり、2オクターブシフトとファズを組み合わせた機能を持っています。このモデルでオリジナルのオクターブシフト・プラス・ファズを体験できますが、ファズの部分には私たちの特別なエフェクトを加えてあります。このモデルはBASSとTREBLEトーン・コントロール、およびMIDノブでオクターブシフト効果の掛かり具合を調節できます。DRIVEノブでファズ量を調節します。



## Octave Fuzz (Tycobrahe Octavia をモデリング)

このOctaviaモデルは過去の偉大なギタリスト達の亡霊に操られたようなサウンドです。Octaviaはファズとオクターブの混合エフェクトの一つです。このタイプのエフェクトを最初に使ったのはジミ・ヘンドリックスでした。Tycobrahe Octaviaはジェフ・ベックが使い、そしてMichael Landauが音作りの重要なパーツとして使いました。Octaviaはオーディオ出力トランスフォーマーと2つのゲルマニウム・ダイオードを使ってギター・シグナルを整流し、ハイオクターブのサウンドを生み出しています。私たちのモデルは写真のオリジナルをベースにしています。開発に携わったギタリスト達は、皆自分の仕事が終わると、このモデルを家に持ち帰って楽しんでいました。



